

国際研究集会のご案内

東京大学史料編纂所では、中国国家博物館（北京市）との間で倭寇と倭寇図像をめぐる共同プロジェクトをおこなっています。今年度も、北京から陳履生副館長らを招聘し、下記の日程で国際研究集会を開催いたします。

今回日本側では、1556年倭寇禁圧を要請する明使の史料（本所所蔵）を紹介し、大友・大内両氏の遣明船との関わりで日中双方の倭寇絵巻に残る「弘治」年号の謎を読み解きます。また中国側は、太平の街を襲撃する倭寇を描いた絵図（国家博物館蔵）を取り上げます。押し寄せる倭寇はみな扇子と日本刀を手にしているなど、歴史絵画として興味深いものです。

ご関心をお持ちの方、ぜひ御参加ください。

倭寇と倭寇図像をめぐる国際研究集会

日時: 10月18日(火)、14:00~17:00

会場: 史料編纂所・大会議室(福武地下1階)

【報告】

須田牧子(東京大学史料編纂所助教)

「『蔣洲咨文』について」

鹿毛敏夫(同共同研究員・新居浜高専准教授)

「『抗倭図巻』『倭寇図巻』と大友義鎮・大内義長」

陳履生(中国国家博物館副館長)

「『太平抗倭図』について」(仮題)

※終了後、『UTカフェ』(1階)にてレセプションを予定。

共催/東京大学史料編纂所・

附属画像史料解析センター

本研究集会は、共同利用共同研究拠点研究「日本史史料の研究資源化」の特定共同研究として行われます。

特定共同研究「倭寇像の比較研究」/画像史料解析センター「倭寇画像」PJ(研究代表者:須田牧子)

科研費基盤研究A「ロシア・中国を中心とする在外日本関係史料の調査・分析と研究資源化の研究」(研究代表者:保谷徹)

